

令和3年度 学校評価 アンケート結果

R4.02.22

1 実施方法

実施計画に基づき今年度の学校運営について、教職員、児童生徒、保護者、関係機関へのアンケートを令和3年11月24日～12月3日の期間で実施した。アンケートを集計し結果をまとめ、学校評議員から意見をいただき学校関係者評価とする。

今回の結果をもとに、反省会で改善の方策を検討し、協議の上、次年度の運営計画に反映させる。

2 対象者

- (1) アンケート調査 教職員 70名（事務職員、医療的ケア看護師、緊急支援員を含む）、児童生徒 39名（小学部は適宜聞き取り）、保護者 34名、関係機関 6名
- (2) 意見聴取 学校評議員 6名

3 アンケート項目

- (1) 教職員 学校運営計画の重点目標と、いじめ、体罰、働き方改革等に関する質問 15項目。医療的ケア看護師・緊急支援員については自由記述のみ。
- (2) 児童生徒 学校生活、学習内容、いじめ等に関する質問 9項目。
- (3) 保護者 教育活動、学校生活、学校との連携、いじめ、体罰等についての質問 13項目。
- (4) 関係機関 教育活動、学校との連携、いじめ、体罰等についての質問 13項目

4 アンケートのまとめ

(1) 教職員（回収率 99%）

肯定的評価（A：そう思う、B：だいたいそう思う）の割合は全体の平均が90%で高い評価である（小学部 87%、中学部 91%、高等部 90%）。

高い評価項目は11「いじめ」・12「体罰」が100%、1「生活習慣・対人スキル」・4「指導内容と指導方法の工夫」・13「安全・安心」が98%であった。比較的评价が低い項目は、7「キャリア教育」・14「業務改善」77%、5「授業改善」・15「心身の健康」78%であった。

自由記述では、個別の計画や記録の有効活用について改善提案があった。キャリア教育の学部間及び進路指導との連動、授業改善と専門性向上の取組、業務改善と心身の健康維持については、課題が指摘され、一層推進する必要性が示された。関係施設との間での指導方法や情報の共有、連携の促進も求められている。

(2) 児童生徒（回収率 77%）

肯定的評価の割合は平均で74%であり、教職員、保護者と比較して低い評価である。学部ごとに比較すると、小学部 85%、中学部 68%、高等部 68%で、小学部で高く中学部・高等部で低めの評価である。

高い評価の項目は、小学部；1「きまりを守り挨拶できる」・3「授業のわかりやすさ」100%、中学部；3「授業のわかりやすさ」85%、8「安全・安心」77%、高等部；9「本校で学んで良かった」91%、3「授業のわかりやすさ」83%である。どの学部でも「授業のわかりやすさ」が高い評価を得ている。低い評価の項目は、小学部；9「本校で学んで良かった」67%、中学部；6「相談できる教員」54%、1「規則正しい生活と社会性」62%、2「生徒会・クラブ活動」62%、高等部；5「進路実現の理解と努力」50%、2「生徒会・クラブ活動」58%、4「授業や課題への取り組み」58%である。

自由記述では、不本意な転入、生活習慣や学習について自分の反省、コロナ禍での活動減少、他の生徒の行動への不安に関することも含めて書かれていた。

(3) 保護者（回収率 53%）

肯定的評価の割合は平均で95%と教職員と同様に高い評価である。2「授業内容」・3「生活習慣の指導」・12「適切な指導・支援」・13「本校に満足」が100%であった。比較的评价が低い項目は、5「教員の知識と経験」83%、「相談しやすさ」84%であった。

自由記述では、評価することの難しさ、生徒本人の気づきへの期待についての記載があった。

(4) 関係機関（回収率 100%）

肯定的評価の割合は88%であり、比較的高い評価であった。3「保健衛生指導」、7「情報提供」、9「いじめ」、10「体罰」、11「安全・安心」いずれも100%であった。低い評価項目は4「関係機関との連携」で2名の方が「あまりそう思わない」と回答した。

自由記述では、発達課題への支援の要望、連携の強化、登校時間の検討に関する記述があった。

いただいた評価・ご意見にもとづき、今年度の反省点、改善提案を次年度の学校運営計画に生かしていきたい。